

「2016年 中国・天津国際友好都市円卓会議」
及び「2016年 サマーダボス会議」

— 報 告 書 —

平成28年6月25日（土）～28日（火）於 天津市

市長	熊 谷 俊 人
総合政策局長	金 親 芳 彦
市長公室長	峯 村 政 道

目 次

I	目的	1
II	日程及び会場	2
III	2016 年中国・天津国際友好都市円卓会議	
1	出席者	3
2	参加都市	3
3	天津市幹部と挨拶	4
4	開幕式	4
5	朝食会	5
6	会議の概要	5
IV	2016 年サマーダボス会議	
1	文化的イベント	12
2	開幕式	14
3	会議の概要	14
V	天津市人民代表会議常任委員会主任との面談	16
VII	天津市体育局関係者との面談	17

「2016年中国・天津国際友好都市円卓会議」

及び「2016年サマーダボス会議」

I 目的

本市は、昭和61年（1986年）5月7日に、中国・天津市と友好都市締結調印を行い、以来、卓球やサッカーなどのスポーツ交流をはじめとする様々な市民レベルの交流によって、天津市との友好関係を築いてきた。

今年は、友好都市提携の30周年の節目に当たることから、5月には天津市政治協商会議代表団が、6月には天津市公式訪問団が来葉し、市長に表敬訪問を行うなど、地方政府レベルの交流が行われるとともに、文化交流の一環として、7月に天津市楊柳青木版年画展の開催が千葉市美術館で予定されている。

そうした中、天津市より、「2016年中国・天津国際友好都市円卓会議」と「2016年サマーダボス会議」の両国際会議を開催するので、30周年という記念すべき年でもあり、千葉市長を招聘したいとの要請があったため、各々以下の目的をもって出席するものである。

（1）2016年中国・天津国際友好都市円卓会議

天津市長を表敬訪問し、友好親善・相互理解を深めるとともに、出席都市とまちづくりについての意見交換を行う。

（2）2016年サマーダボス会議

国家戦略特区に関するセッション等に参加し、パーソナルモビリティやドローンの将来的な活用方法等について、意見交換を行う。

【参考】

（1）中国・天津国際友好都市円卓会議

天津市の友好関係都市が一堂に会し、共通する都市問題の取組みについて意見交換や討論を行い、持続可能な都市の発展を目指そうとするもので、隔年で開催されている。

平成22年より行われており、今年で4回目の開催となるが、市長の出席は初めてとなる。

（2）サマーダボス会議

世界経済フォーラムが主催する会議で、経済・科学・行政等の代表者が世界各国から集まり、国際的な課題や各分野の取組みについて講演や意見交換が行われるもので、毎年9月に、中国の天津市と大連市において交互に開催されている。今年は、開催地である中国側の事情で、急遽6月に開催されることとなった。

平成19年より行われており、今回で10回目の開催となるが、市長の出席は初めてとなる。

II 日程及び会場

平成28年6月25日（土）～28日（火） 3泊4日

月　　日	スケジュール	会　　場
6月25日（土）	午前 羽田空港発 午後 北京首都空港着 夕方 受付 夜 天津市幹部と挨拶 円卓会議開幕式及びレセプション 市内視察	ST. レジス天津ホテル 天津迎賓館 同上
6月26日（日）	朝 朝食会 午前 円卓会議 午後 円卓会議 夜 サマーダボス会議（文化的イベント）	ST. レジス天津ホテル 同上 同上 天津文化センター
6月27日（月）	午前 サマーダボス会議 午後 サマーダボス会議 天津市人民代表大会 常務委員会主任と対談 夜 サマーダボス会議出席者との対談 ※総合政策局長及び市長公室長は、市長のサマーダボス会議出席中に市内視察（午前）、オリンピック施設視察及び意見交換（午後）を行った。	梅江メッセ 同上 天津人民代表大会 貴賓ホール クラウンプラザホテル
6月28日（火）	午後 北京首都空港発 夜 成田空港着 ※当初予定では午前発の便であったが、天候の理由により、出発及び到着が4時間遅れた。	

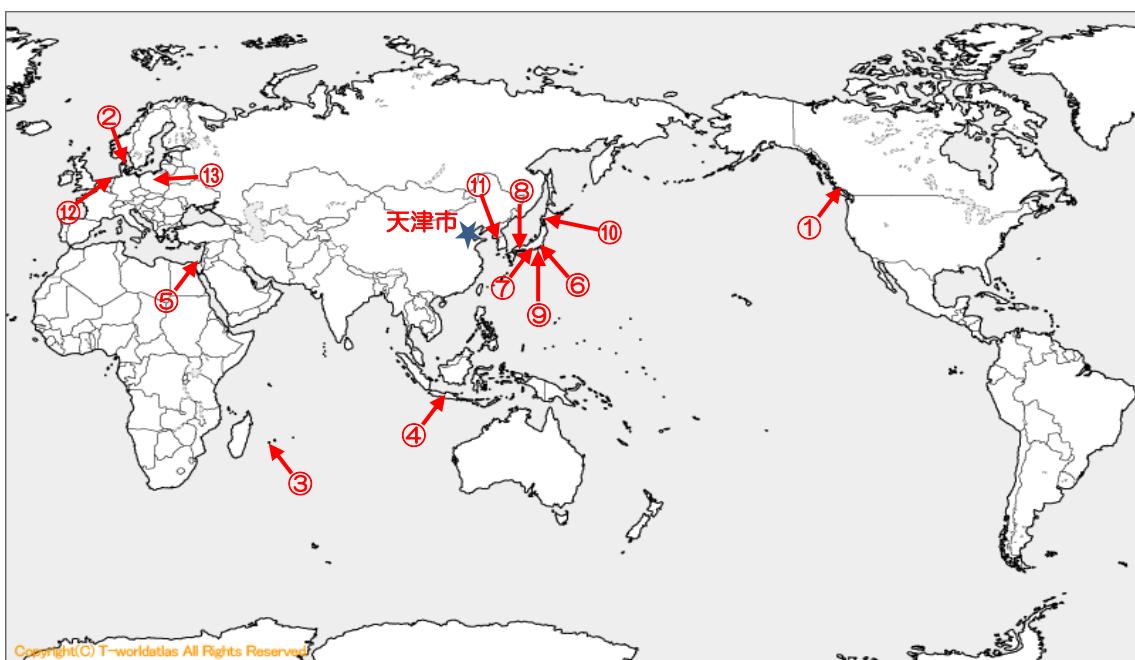
III 2016年中国・天津国際友好都市円卓会議

1 出席者

市長 熊谷俊人
総合政策局長 金親芳彥
市長公室長 峯村政道

2 参加都市 9か国13都市

- バンクーバー市（カナダ）①
- オーデンセ市（デンマーク）②
- レユニオン県（フランス）③
- 東ジャワ州（インドネシア）④
- リション・レジオン市（イスラエル）⑤
- 千葉市（日本）⑥
- 四日市市（日本）⑦
- 神戸市（日本）⑧
- 静岡県（日本）⑨
- 函館市（日本）⑩
- インチョン市（大韓民国）⑪
- フローニングレン市（オランダ）⑫
- ウッチ市（ポーランド）⑬



★は天津市

3 天津市幹部と挨拶

熊谷俊人・千葉市長は、天津迎賓館にて、黄興国・天津市長をはじめとする市幹部からの出迎え及び挨拶を受けました。その後、各国代表者とともに記念撮影が行われました。



(写真中央に黄興国・天津市長 その向って右側に熊谷俊人・千葉市長)

4 開幕式

9か国13都市の代表者並びに関係者が一堂に会し、「2016年中国・天津国際友好都市円卓会議の開幕式及びレセプション」が開催されました。



開幕式にて祝辞を述べる熊谷俊人・千葉市長



黄興国・天津市長とともに



開会宣言は趙・天津市副市長



バンクーバー市のMcKay氏ともに

5 朝食会

平成 28 年 6 月 26 日、各都市代表が集まり朝食会が行われました。



挨拶をする各都市代表

6 円卓会議の概要

- (1) 開会挨拶（天津市政治協商會議 香港マカオ台灣華僑及び外事委員会 田貴明・主任）
- (2) 基調講演（天津市 趙海山・副市長）
 - ・友好都市円卓会議は2010年に始まり、過去3回開催された。これらを通じ、友好都市間の都市問題の認識が深められるとともに、強い友情で各都市が結ばれることになった。
 - ・天津市は世界100以上の都市と友好関係を結んでおり、当会議は、相互に学びあい、相互に発展するための場である。
 - ・天津市は、経済発展をするためのプラットフォームづくりに力を入れている。
 - ・中国は、従来において外貨を吸引してきたが、現在は、中国企業が世界に出ていくことを推進している。
 - ・先日、仁川市（大韓民国）と千葉市（日本）を訪問し、相互の発展について取組むことに合意した。この会議においても、出席各都市との合意形成を進めたい。



田貴明・主任 天津市政治協商會議



趙海山・天津市副市長

(3) 各都市からの主な発言要旨

バンクーバー市（カナダ）

- 英国がEUを離脱することになった。こうした状況の中で、一带一路のテーマのもとに議論することは重要である。
- 当市は、環境を重視しておりクリーンな街にすることを心掛けている。中国からも様々な企業の協力を得て、推進していきたいと考えている。
- バンクーバー市は、ハリウッドの次に、世界で2番目の映画撮影の基地となっている。また、特にアニメをベースとしており、若者の魅力を集めている。
- 日本からもソフトバンクが北米拠点とする動きがあることを紹介する。
- こうした状況は、起業にふさわしい環境が当市にあることを物語っている。さらに、北米地域で初めて、中国元の債権を発券することができるようにしたので、中国企業の進出を期待している。

オーデンセ市（デンマーク）

- 当市は、デンマーク第3の都市であり、アンデルセンの故郷として有名である。
- 福祉国家として介護産業が発展してきたが、近年、ロボット産業の発展が著しい。
- 経済発展には、1都市だけではうまくいかず、都市間の連携が重要である。
- 一例をあげると、ロボット産業に対し、中国からの資金提供があり、その技術開発を迅速に進めることができた。現在も協力プロジェクトが進行中である。

レユニオン県（フランス領）

○レユニオン島は、インド洋の中心に位置しアフリカに近い島（マダガスカル島の東方）で面積は2,512Km²、人口は約90万人。フランス共和国の海外地域圏（海外県）で、多くの華人・華僑がいる。主要作物はサトウキビで、他にラム酒、バニラなどがある。



- レユニオン県にとって、国際関係は非常に重要である。2009年に、中国が総領事館を設立し、インド洋の国々との関係を発展させてきたので、特に中国との協力関係は大変重要と考えている。
- また、レユニオン県はフランスの領地として欧洲との関係もあり、また、中国がアフリカへの進出の玄関口としても活躍できる地域と考えている。
- 今回、レユニオン島から天津へは飛行機を3回乗り換え、20時間かかった。観光需要を取り込むため、中国への直行便について調整をしたい。

東ジャワ州（インドネシア）

- インドネシアの人口は2億5千万人。うち東ジャワ州の人口は3, 861万人。
- 人口成長率は低くなっているが、GDPは5.5%前後で良好である。
- 鉱業が主要産業で、石油資源も持っている。（産出量：20万バレル／日）
- 2003年に天津市と友好都市提携を行った。すぐにはお互いの協力が進まなかつたが、徐々に進展があり、最近は実り多き結果も出ている。
- 例えば、オーダー家具のオーストラリアへの輸出において、天津市を仲介して行う物流システムを構築したことにより、円滑な輸出及びリサイクル・修理の回流が出来上がった。
- また、中国より500億ドルの資金援助を得て、高速鉄道を開発することになった。我々は発展途上国であり、このようなチャンスをつかみ、同時に本日参加の都市とも連携をしていきたい。



東ジャワ州の説明映像（1）



東ジャワ州の説明映像（2）

中国より「一带一路」の背景について説明

- 「一带一路」の「一帯」とは、中国から中央アジアさらには西アジアにつながる地域で「シルクロード経済ベルト」とも呼ばれている。「一路」とは、中国から南シナ海、インド洋、アラビア海を経て地中海に至る海上交通ルートのことで、「海上のシルクロード」と呼ばれている。つまり、「一带一路」とは、2013年に習近平・国家主席が提唱した経済圏構想である。
- 2014年に、中国で開催されたアジア太平洋経済協力首脳会議でも提唱され、また、李克強・総理が関係国を訪問し、多くの支持を得られているが、少し認識の違いがあり疑いの目で見られているので、改めてこの場を借りて説明をしたい。
- 3つの原則の紹介する。
 - ①国際規模のイニシアチブである。（中国の独りよがりではなく、世界の利益を考えている。）
 - ②中国周辺国の平和と安全をバックアップするものである。
 - ③経済外交のプラットホームになることであり、信頼・誠実・融合のもとに進めるものである。
- 習近平・国家主席の重要な外交政策であり、他国の利益も考えているものであることを皆様には御理解頂きたい。



円卓会議の全景

千葉市（日本）

- 市勢概要（地理的特性・人口・面積）について説明。
- 幕張新都心は、幕張メッセとともに整備された MICE 都市であり、複数の商業施設、長大な人工海浜、プロ野球のホームグランドである QVC マリン・フィールド等の観光資源があり、昨年、「グローバル MICE 強化都市」に選定された。国の戦略的支援も受けながら、国際会議誘致等に取り組んでいる。
- レッドブル・エアレース千葉 2016 が開催され、世界各国から多くの来場者があった。
- 千葉市は、2016 年 1 月 29 日、東京圏国家戦略特別区域として指定された。国家戦略特区とは、指定された区域において雇用や医療、農業といった分野における岩盤規制に対し、特例措置を改革の突破口とすることで、国内外からの民間投資の誘導や雇用を創出し、経済成長を目指すものである。
- 「幕張新都心を中心とした近未来技術実証・多文化都市」をイメージしており、具体的には、ドローンや自動走行車等の先端技術の拡張、外国人創業人材の受入促進（在留資格の緩和）を提案している。



市勢概要についての説明映像



説明を行う熊谷俊人・千葉市長

- 先端技術を拡張したドローンによる宅配実験を行ったので動画映像をご覧いただきたい。
(→ドローン宅配の実証実験の映像)
- 若葉住宅地区に超高層マンションが開発され、新たに4,500戸、1万人規模の街が生まれる。
薬や日用品などをドローンによる宅配を行うことで、事業者の作業効率の向上や子育て世帯・高齢者世帯などの利便性の向上につながると考える。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピックでは、一部の競技が幕張メッセで開催される。
オリンピック → フェンシング、レスリング、テコンドーの3競技
パラリンピック → 車いすフェンシング、テコンドー、ゴールボール、シッティングバーレーボールの4競技
- 今年は、千葉常重という武将が1126年に千葉市中心部に館を構え、都市としての「千葉」が誕生してから890年になる。千葉市では、10年後の900年に向けて様々なプロモーションを開展する予定である。千葉氏の末裔には、「武士道」を著して世界中に武士道の存在を知らしめた新渡戸稻造などがあり、千葉市はサムライの都市でもある。
- 千葉市は、歴史のある都市であると同時に、ドローンやモビリティ等といった先端技術の実証フィールドを提供し続ける都市で、日本の玄関口である成田空港と羽田空港からそれぞれ30分という立地条件のよい都市でもあるので、2020年東京オリンピック・パラリンピックの際には、宿泊地として是非お選びいただきたい。



若葉住宅地区のドローン宅配イメージ



円卓会議の全景

天津市より自由貿易試験区の紹介

- 濱海新区と呼んでいる地区的政策と進展状況について説明する。
- 120km²という広大な敷地面積を持つ、中国北方地区唯一の自由貿易区で、投資・利便性の向上・イノベーションの展開を目的にしている。
- 3つあるエリアの1つである空港エリアでは、2万社の航空産業の集積がある。エアバス社の320型航空機の組み立てラインができるまで、飛行機のレンタル業も盛んである。中国の航空機10台のうち2台はここからレンタルされている。今後は、宇宙産業のデバイス集積を目指している。
- 試験区としての任務があり、①政府による手続きの簡略化 ②外国からの投資の拡大 ③口座取引による窓口の一本化 ④リース業のプラットフォーム化 ⑤サービスレベルの向上 ⑥社会信用システムの構築である。これらにより、当該地区に起業のムーブが起きている。

神戸市（日本）

- 市勢についての説明。
- 当市には4万5千人の外国人がいるが、うち1万4千人が中国人である。
- 産業は、鉄鋼・造船業からファッショナ産業、そして、コンベンション及び観光施策に力を入している。また、国家戦略特区に指定され、医療産業クラスターの形成を推進している。
- 当会議では、水道事業について説明したい。
- 当市は、大きな川がなく遠くから水を運んでいる状況にあるため、ポンプ場が多く、これらを管理するテレコントロール・テレメーターシステムを日本で最初に導入し、市民の99.9%に上水道を供給している。
- この技術を活かし、JICAを窓口にして、世界の水不足や安全な水の供給に協力を行うことによる国際貢献及び技能継承を目指している。特に、スリランカ、ベトナム、ミャンマーとは水道事業提携・協力を行っており、研修生の受け入れも実施している。

四日市市(日本)

- 面積は205Km²、人口は約31万人。中京工業地帯の代表的な工業都市である。
- 石油化学系の企業が多数立地し、1960～1970年代にかけて大気汚染による日本を代表する公害が発生したが、市民・国・自治体が協力し、解決に至っている。
- 半導体の産業集積があり、また、HONDAの工場があり、多種多様な企業群が四日市市を取り巻いている。特に、高度部材の供給拠点となっており、日本の813の市の中で製造品出荷額は、第9位にランクされている。
- 道路網、鉄道網がすでに完備され、日本各地から最もアクセスの良い産業立地環境にある。また、日本には東京と名古屋を結ぶリニアモーターカー計画があり、完成すれば、東京から1時間20分の距離となる。
- 過去の経験から、公害防止のための行政サイドからの投資が最も大きい市であり、環境改善型産業が発展している。



四日市市の説明映像（1）



四日市市の説明映像（2）

ウツチ市（ポーランド）

- 当市は、ヨーロッパの中心に位置し、各首都へのアクセスに便利な都市である。
- 天津市とは20年の友好関係にあり、中国の一帯一路政策が打ち出されている中で、中国とポーランド間の直通鉄道が建設されている。
- そうした機会を捉え、市の発展に繋げていくために地方政府が産業をバックアップしており、従来の紡績産業からハイテク産業にシフトしつつある。
- また、文化都市としての発展を目指し、文化センターを設置し観光政策に取り組んでいるところであり、2020年の万博開催地にも立候補をしている。

(4) 閉幕挨拶

- ・2016年の円卓会議により、友好都市の相互認識が深められ、友好関係が強いものとなった。
- ・円卓会議は2010年から中国対外友好協会、天津市人民政府、天津市政治協商会議より共同で発起され、現在は、サマーダボス会議の一部として開催されている。
- ・サマーダボス会議の欠かせない部分となり、天津、ひいては中国と各国友好都市間との横向きの交流と協力のための重要な場となっている。
- ・今回の会議は2日にわたり開催され、9か国13都市から80名以上の国内外の来賓が出席された。
- ・天津市は、43国家83都市と友好関係を結んでいる。優位性の相互補完、協力互恵双赢WINWINという原則のもとで、各都市の市民に利益を与えることと、各都市の発展に向けての交流を開拓したいと考えている。
- ・皆様のご参加とご支持に感謝申し上げて、閉幕とする。

IV 2016年サマーダボス会議

1 文化的イベント

天津文化センターにて、文化的イベントが開催され、黄興国・天津市長及び世界経済フォーラムの主宰者であるクラウス・シュワブ氏から、サマーダボス会議参加者に対する歓迎の挨拶が行われた。



黄興国・天津市長



文化的イベントの開幕式



クラウス・シュワブ代表



文化的イベント開催前の参加者の様子



クラウス・シュワブ代表の挨拶を聴く参加者



黄興国・天津市長より挨拶を受ける熊谷俊人・千葉市長



曹小紅・天津市副市長（中央の女性）と歓談する熊谷俊人・千葉市長

曹小紅・天津市副市長は、平成 27 年 9 月 9 日に、公式訪問団の代表として千葉市長を表敬訪問している。医療、教育、スポーツ分野の担当副市長であり、訪問時には、千葉市消防局指令センターや医療制度についての視察を行っている。

なお、曹小紅・副市長は、千葉大学大学院に留学経験があり、通算 10 年間も日本に住んでいた経験があることから、日本語が非常に堪能である。



趙海山・天津市副市長と熊谷俊人・千葉市長

趙海山・天津市副市長は、天津市と千葉市の友好都市提携 30 周年を記念し、公式訪問団の代表として、平成 28 年 6 月 12 日に千葉市長を表敬訪問している。市長との面談においては、これまで培ってきた友好親善を一層深めるとともに、さらなる交流促進が合意され、友好都市提携 30 周年にかかる宣言書が両氏署名のうえに作成されたところである。

また、同日に行われた天津市公式訪問団の歓迎レセプションにおいて、趙海山・天津市副市長は、向後・市議会議長、白鳥・市議会副議長、市議会姉妹友好都市議員連盟の宇留間会長及び川岸副会長とも面会している。

なお、趙海山・天津市副市長は、ビジネス、観光、国際交流及び大型イベントの担当副市長であり、今回のサマーダボス会議の実務責任者であった。

2 開幕式

平成 28 年 6 月 26 日、天津市南部に位置する梅江メッセにて、サマーダボス会議の開幕式が行われ、市長が出席をした。

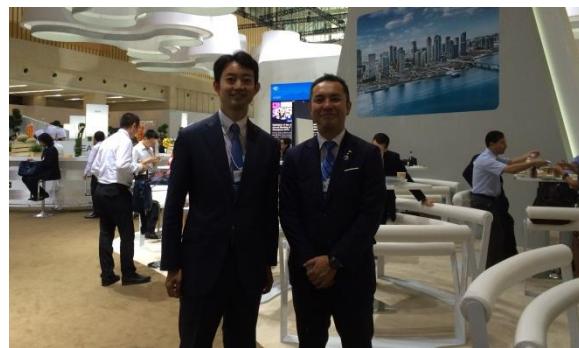
開幕式には、李克強首相も出席し基調講演を行うなど、中国において、サマーダボス会議が極めて重要な国際会議として位置づけられている。



開幕式会場にて



開幕式で中国経済に対する質問に答える李克強首相（左側）



会場にて鈴木英敬・三重県知事と

3 サマーダボス会議の概要

（1）特徴及び方向性

ダボス会議は、冬にスイス（ダボス）で行われるものと、夏に中国で開催されるサマーダボスがある。両会議とも、国際的な課題を解決するには行政セクターだけでなく、経済・科学・行政等の多様なセクターによる議論が重要であるとの認識のもと、各界のトップを集めて行われているものである。

冬のダボス会議は、定例会的なものであるが、サマーダボス会議は、「科学技術」と「新しい試み」に焦点を当てているのが特徴で、議論を通じて今後の新しいモデルを導き出していくことを目的にしている。今回は、「第4次産業革命：モデル転換の力」を主テーマにして、2千人以上の参加者が、経済格差をなくしながら様々な課題を解決していくことを探求した。

（2）会議形式等

サマーダボス会議では、公式セッション、プライベートセッション、バイ会談といった3種類の会議が同時並行的に行われる。

また、会議においては、一方的に講演者が話をするのは少数派であり、基本はインタラクティブな会議であり、アイディア・ブレーンストーミングにより新しいアイディアを生み出そうという会議が主体である。

(3) 会議等

2016年1月に、千葉市は国家戦略特区の指定を受けたことから、幕張新都心における実証実験等が行われているドローンやモビリティに関するセッションに参加し意見発言を行うとともに、モビリティに関する識者あるいは企業の代表者とバイ会談を設定し、意見交換を行った。

(4) 公式セッション

会議名 Shaping the Future of Mobility (モビリティの将来の形作り)

組織的な変化や戦略の変更、そして新しい技術は、モビリティの将来をどのように変化させるかをテーマに議論が行われた。



セッションの様子

(5) バイ会談



John Moavenzadeh 氏 (Head of Mobility Industries Member of the Executive Committee) とモビリティーについて対談

同氏は、フォード自動車（米国）勤務を経て、MIT の International Motor Vehicle Programにおいて Executive Director を務めた。2007年より世界経済フォーラムにおいて現職。モビリティに関する世界有数の識者である。



Wang Chuanfu 氏 (Chairman BYD Company) とモビリティーについて対談

BYD は、中国・深圳市に社を置く企業で、携帯用リチウムイオン電池製造で世界第1位のメーカー。現在は、そのノウハウを生かして自動車事業に参入し、電気バスの分野にも進出している。Wang 氏は、その創業者であり現在の総裁である。

V 天津市人民代表会議常任委員会主任との面談

1 面談日時 2016年6月27日（月） 16時45分から17時30分

2 面談場所 天津市人民代表会議 貴賓ホール

3 面談者 （天津市側）肖懷遠 天津市人民代表大会常務委員会主任

尹海林 天津市副市長

楊福剛 天津市人民代表大会常務委員会秘書長

陳衛明 天津市人民政府外事弁公室副主任

劉東水 天津市商務委員会副主任

（千葉市側）熊谷俊人 千葉市長

金親芳彦 総合政策局長

峯村政道 総務局市長公室長

4 面談内容

肖懷遠・主任から丁重なる歓迎の挨拶を受けた後に、熊谷市長からは、平成23年に小川智之・千葉市議会議長とともに天津を訪問したが、30周年という節目の年に招聘を受け、2度目の面会を果たすことができたことは感慨深く、両市の友好関係の更なる発展へ期待したい旨が述べられた。

そして、高齢者問題、都市づくりに関する意見交換が行われたが、特に、熊谷市長からは、千葉市が国家戦略特区に指定されたが、これは5年前に天津市を訪問し、国家と天津市の共同プロジェクトである濱海新区を視察させて頂いた影響が少なからずあるとの発言があった。

最後に、変わらぬ友好関係を確認するとともに、記念品の交換が行われた。



面談出席者全員で記念撮影（市長の向って右が肖懷遠・主任）

VI 天津市体育局関係者との面談

- 1 面談日時 2016年6月27日（月） 14時から15時15分
- 2 面談場所 天津オリンピックセンタースタジアム内会議室
- 3 面談者 天津市体育局元局長 謝徳龍（シャ トクリュウ）氏
天津市体育局外事管理センター 李万岐（リ マンキ）氏
天津オリンピックセンタースタジアム 場長 王全鋼（オウ ゼンコウ）氏
天津オリンピックセンタースタジアム 弁公室主任
千葉市 金親芳彦（総合政策局長）
峯村政道（総務局市長公室長）
通訳 花超



左手前より、李万岐氏、謝徳龍氏、王全鋼氏 右手は金親局長

4 面談内容

謝徳龍元局長と李万岐氏は、以前千葉市の幕張メッセで開催された「世界卓球選手権」の時以来何度か千葉市を訪問したことがあり、特に重村元体育協会会長には当時お世話になったことが思い出深い。重村さんは元気でいらっしゃるか、懐かしく感じる。

千葉市とは友好都市でもあることから、スポーツを通じての友好を重ねてきているし、オリンピックなど世界レベルの大会は、千葉市を訪問して得た経験が大きく影響し、成功の鍵となったとのこと。

質問事項1

2008年のオリンピック当時の天津市としての運営体制はどのようなものだったのか？

- ・北京オリンピックの時天津市はサッカーの会場として、このスタジアムを使い、12試合の予選を行った。
- ・運営体制としては、中央政府の指導グループの下、地方政府として運営体制を構築した。天津市として取り組んだのは、運営に関するソフト面だけでなく、道路や交通、エネルギー供給といったインフラ面を含め、12の専門分野のグループを編成し全市体制で臨んだ。
- ・当然、大会気運の醸成にも積極的に取り組んだ。
(民間事業者は運営体制にどのようにかかわったか?)
- ・民間事業者は一切運営体制には関与せず、天津市政府のみによる運営体制とした。

開催に至るまでの具体的な準備などはどうであったか？

質問事項2

ボランティアの育成等

- ・ボランティアは積極的に活用した。
- ・ボランティアは、共産党の青年組織等を中心に組織した。そして、このボランティアは天津市会場だけでなく北京市会場へも提供した。（天津市は北京市に比較的近いという事情）
- ・実際のボランティアは公募選抜も行ったが、体育学院や公安学校の学生が中心であり、語学能力や礼儀、一定の教育訓練の熟度等から選抜を行った。
- ・ボランティアの事務局では、各部門からのニーズを把握し割り振りと、本番までに必要な専門的トレーニング、教育を行った。
- ・これらのトレーニング修了者には、修了証・認定証を発行した。
- ・ボランティアについては、オリンピック本番だけでなく、その前のプレ大会やそのほかのダボス会議や友好都市円卓会議などの国際会議等で実践体験を行い、オリンピックに備えた。

質問事項3

バリアフリー化への対応

- ・ハード的な整備に関しては、中央政府グループから施設の設計段階から「まちづくり」としての指示があり取り組んだ。
- ・ただし、パラリンピックの開催がなかったことから、都市全体としてのバリアフリーへの取り組みは行っていない。

質問事項4

多言語化への対応

- ・北京大会当時、天津市ではインターネットは十分普及している状況とは言えず、市民交流は語学ボランティアに頼る側面が大きかった。
- ・多言語化を含め、街並みを改めてデザインする必要があったが、言語に関しては主要道路や会場周りの案内標識は中国語と英語の2言語表記に統一した。
- ・多言語化ではないが、都市開発専門グループからは、街中における表示等でIOCビジネスにおけるスポンサー権利を守る指導が強くあった。

オリンピックレガシーに関して

質問事項5

天津市にとってオリンピックレガシーとして残っているものは何か

- ・一つに、競技スポーツという側面において、大会開催（サッカー）を契機に自国の世界におけるレベルを認識したこと。世界レベルへの視野拡大につながるとともに、そのレベルへ達したいという欲求が専門家の間で強く芽生えた。
- ・二つに、一般市民レベルではスポーツや、体力強化、健康管理について関心が高まった。
以前は 30%程度の興味であったものが現在では 60%以上の市民がこれらに関心を持っているとの

調査結果がある。

- ・三つに、市内にスポーツ関連産業が生まれてきた。

以前のスポーツ施設は公営のものしかなかったが、現在は民間施設も生まれるなど市民の意識の変化とともに、民間産業も成長しつつある。

- ・四つに、オリンピックを契機に、まちづくりや人間関係もハーモニー的になり、市民生活のレベルも全体的に向上してきている。

面談後の所感（金親）

- ・大会運営についての体制等については、お国柄に違いを感じる部分は多かった。
- ・ボランティアに関しては、共産党青年組織を通じての募集等については参考とはならないものの、ボランティアに対する一定の育成教育、教育の修了証、認定証の付与制度は参考になるし、特に本番だけではなくそれに向けて、様々な機会を通じての事前の経験値を積む必要など参考となる話を聞けた。

千葉市としても、ボランティア本人の経験とともに、運用する側の経験値を積むためにも、2020年の本番に至るまでの間に、スポーツ大会、国際会議等でボランティア活用の場面を作り出す必要があるものと考える。

- ・学校教育におけるオリパラ教育、障害者スポーツについては事前に質問を送付したが、パラリンピック競技開催都市ではないことから回答をもらうことはできなかった。
- ・大会レガシーに関しては、都市としての成熟度の違いやパラリンピック競技開催都市ではないことなどから、本市が目指すレガシーとは違った評価に基づく感想を聞くことができた。
- ・天津市が全市を挙げて取り組んだ2008北京オリンピック会場としての経験を直接聞けたことは、今後の本市の取り組みの大きな参考となるものと考える。



左より、王全鋼氏、峯村・市長公室長、謝徳龍氏、金親・総合政策局長
(2008年北京オリンピックでサッカー会場となったスタジアムにて)